

藤齋藤」からスタートし、その後、目についた気になる歌人を歌風や好みにとらわれず片っ端から夢中でまどめていったという感じがする。

山田は活躍中の若手歌人だが、著名になる以前は「やたらと短歌に詳しい謎の短歌オタクのブログ」として知る人ぞ知るサイトであった。

「穂村弘百首鑑賞」の内容は、後に穂村との共著として『世界中が夕焼け―穂村弘の短歌の秘密』として本になっている。

【眠らない島】

岩尾淳子（未来）の書評ブログ。優しく寄り添うような読みと丁寧な分析で、たくさんさんの書評を日夜、精力的に書き続けている。かつてここで我が歌集の書評を読んだとき「どれだけ素晴らしい歌集なんだ！」と思わず感動したほどだ。書評の他「近代短歌を読む会」のレポート等も充実している。

【ふらんす堂】

伊藤一彦先生の「短歌日記」連載中。毎日一首の新作が紹介されている。日記めいたコメントも同時に読めて楽しい。

以前は横山未来子が同コーナーを一年間担当し、三百六十五首を『午後の蝶』とい

う歌集にまとめている。伊藤先生の日々の歌もいずれ歌集となるのだろう。

【砂子屋書房】

「一首鑑賞・日々のクオリア」は光森裕樹・今井恵子による今日の一首、「月のコラム・うたのホログラム」は内山晶太による連載書評。バックナンバーで藤島秀憲や藤原龍一郎、真中朋久、島田幸典等の書評も読める。

【青磁社】

「青磁社通信」は二〇〇一年から二〇一六年までエッセイや同社の歌集の書評集として不定期に発行された。そのバックナンバーが読める。

「週刊時評」は現在は休止しているが、川本千栄、広坂早苗、松村由利子の三人が執筆していた。二〇〇八から二〇一〇年のバックナンバーの内容は読み応えがある。この他、「大辻隆弘ブログ」「吉川宏志ブログ」がリンクされている。

【たけじゅん】

自己サイトも紹介せよとのことなので不定期に書評や評論、時評、エッセイ等を発表中。これからはもう少し真面目に定期

的に書くようにしたいと思う。

【その他】

「心の花」を含め、結社誌に発表された時評等の記事を部分的にオープンにしている結社サイトもある。「未来短歌会」「塔短歌会」「花林の会」「水甕」等では時評などの一部の記事が読める。バックナンバーを探ってゆくと時に他の知識や時評と結びついたりして思わぬ発見があつたりする。

以上、インターネットで読める評論や書評等を挙げてみた。いずれもサイト名やキーワードで検索するだけだ。

評論に限らず一般的な検索方法のコツだが、ヤフー、グーグル等の検索窓に「評論短歌 ○○○」とキーワードを一字空けて複数個入れると目的サイトへの近道となる。一度見つければ「お気に入り」に入れて定期的に巡回していけばいい。スマートフォンで見ると時や場所も自由になる。

ひと昔前と比べてインターネットのこうした情報は質・量ともに飛躍的に充実してきている。もちろんすべて情報を鵜呑みにはできないが、書籍、総合誌、結社誌に並ぶ重要な情報源としてインターネットを大いに活用したいものだ。